

**[動物]** ニワトリ，ブロイラー，22日齢.

**[臨床症状]** 6日齢頃から脚の異常を伴う発育不良個体が頻発した。死亡個体は出なかったが、発育不良による1日当たりの淘汰は20~30羽となった。

**[剖検所見]** 心臓では心膜の混濁、充血、限局性赤色巣が認められ、足関節周囲は軽度に腫大し硬化していた。

**[組織所見]** 中等度に肥厚した心膜において、び漫性にリンパ球、形質細胞を主体とした炎症性細胞浸潤が認められ、B細胞から成るリンパ小節を伴っていた。また、局所的に広範な領域で出血巣が観察された。一方で心筋線維には変化が認められず、間質に極軽度の炎症性細胞浸潤が観察された。トリレオウイルス (ARV) 特異遺伝子に対する *in situ hybridization* (ISH) を実施したところ、陽性シグナルが散見され、形態学的に心膜および心外膜の中皮細胞、血管内皮細胞、マクロファージなどの炎症性単核細胞であると推察された。関連する病変として、足関節および気嚢においても同様の性質の炎症が、肝臓では多巣性壊死が観察された。

**[診断]** 心膜炎、リンパ球形質細胞性、び漫性、中等度、リンパ小節を伴う (トリレオウイルス感染症)

**[考察]** ARV は鶏ウイルス性腱鞘炎/関節炎の原因ウイルスとして知られており、腱断裂に伴う所謂“青脚”を誘発する。種鶏へのワクチン接種が有効で、近年 ARV 感染症の発生は稀となっている。ARV はその株毎で病原性が多様で、心膜炎も ARV が引き起こす代表的な病変の一つとされている。ARV は鶏の様々な細胞に感染し、増殖あるいは持続感染する。今回、ISH を実施した結果、中皮細胞および単核細胞が陽性を示したことから、心膜炎を誘発した要因として中皮でのウイルス増殖および感染した単核細胞によるウイルスの輸送が病理発生に関与しているものと推察された。

#### **[参考文献]**

1. Pitocovski, J. and Goyal, S. M. 2020. Avian Reovirus Infections, pp. 382-400. In: *Disease of Poultry*, 14th ed., (Swayne, D. E. ed), John Wiley & Sons, Inc..
2. Mase, M., Gotou, M., Inoue, D., Masuda, T., Watanabe, S. and Iseki, H. 2021. Genetic Analysis of Avian Reovirus Isolated from Chickens in Japan. *Avian Dis.* **65**: 346-350.
3. 高瀬公三 2010. ウイルス性関節炎/腱鞘炎. pp. 54-57. *In: 鳥の病気*, 第7版 ed., (中村菊保 eds.) 鶏病研究会, つくば市.

(小野浩輝)